

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : マンハッタンビルカレッジ

留学期間 : 平成 27 年 8 月 24 日 ~ 平成 28 年 5 月 5 日

私はアメリカ合衆国のマンハッタンビルカレッジという小さな大学で、一年間マーケティングとコミュニケーションを中心に学んできました。学校はニューヨークの中心であるマンハッタンからバスもしくは電車で約一時間の場所にあり、私を含めほとんどの生徒がキャンパス内に住んでいました。留学が始まってすぐは、色んな人との出会いや新しい環境にわくわくし、楽しいばかりの日々がしばらく続きました。しかし、履修登録の際には、交換留学生の立場として優先順位は一番下になり、1 学期目も 2 学期目も好きな授業は履修期間中にはほとんどとることができませんでした。それでもせっかく学びにきたのだからと、私はそれぞれの先生に交渉にいて無理矢理入れてもらうなどして、全てとはいかずともどうにか狙っていた授業をいくつかとることができました。そのため留学先での履修登録の際は、すでに満員に達している授業であっても諦めずに早めに行動にでて交渉することをお勧めします。実際の授業に関しては、私は日本で通っていた大学で既に英語で授業を受けることに慣れていたため、実際に現地で英語の授業を受けることにあまり難しさは感じませんでした。しかし、私は一度現地の学校であるからこそその悔しい経験をしました。私がある授業の 10 分ほどのプレゼンテーションの形式を間違えて理解していたことがあり、当日にそれに気づき先生に事情を話しせめてメモを手元におかせてくれないかと交渉した際、それは関係ない、何も手にもたず前にでて今からプレゼンを始めなさいと言われ、練習の成果も台無しで、なんともまとまりのないプレゼンをするはめになってしまいました。もちろん、厳しさはそれぞれの先生によります。しかし私は、自分は現地のアメリカ人たちと同等のレベルで勉強しているわけであり、今後アメリカで働くようならば、言語の不理解からでたミスを許してくださいなど甘いことは言えないだろうと実感しました。

また私の大学はとても小さく、1 クラスの規模もほとんどの授業が 20 人ほどで、授業中に先生に直接質問をしたり、いつでも手をあげて発言ができる環境がとても好きでした。授業内容も、話を聞いてテストのために暗記して学ぶだけではなく、実際にビジネスプランやマーケティング戦略の作成、そしていくつものプレゼンテーションを通してより実践的な技術を身につけることができました。クラス規模が小さい分、先生も親身になってひとりひとりにアドバイスをしてくれ、日本で受けていた大きい教室でのレクチャー式の授業とは違った、より得る物の多い濃い授業を経験することができました。

留学生活全般で私が最も苦しんだのは、寮でのルームシェアです。1 人目のルームメイトとも 2 人目のルームメイトともうまくいかず、部屋にすることができず友達の部屋や図書館に籠る時期もありました。問題は私が違和感を感じた時点で早く行動に出ず、もう少し我慢してみよう様子を見ようと思いついて限界がくるまで待ってしまったことです。もちろん、私のアメリカ人の友達には、気が使える人、優しい人はたくさんいます。しかし、私たちが日本人として当たり前であると思っていることも文化が違えばここまで違うものだ実感しました。留学中のルームシェアに関しては、居心地が悪いと感じたらまず話してみて、それでだめならばすぐにル

ームチェンジをすることをおすすめします。

しかし、これ故に私は自分の部屋にいた時間はほとんどなく、たくさんの友達を作ることができました。学校には留学生が多く、ベトナム、中国、ブラジル、コスタリカ、グルジア、ブルガリア、マーレーンなどメジャーな国から珍しい国まで国籍の広い友達ことができました。また、ときどき学校のボランティアに参加し、マンハッタンのホームレスへご飯や服を配りに行くような経験もしました。キャンパス外で通い始めたスポーツジムでは色々な年齢層、職種の人たちと出会い、コネクションも広がりました。2学期目にはインターンシップで週に1度マンハッタンまで通い、アメリカで、英語で働くということがどういうものを学びました。インターンとはいえ、実際にその会社を代表し英語で現地のクライアントと会話をすることで、責任感を覚え今後の自分の自信にも繋がりました。この1年間の留学の成果として、まず私は授業を通してビジネス、主にマーケティングの基礎を学んだと共に、最新のビジネスに興味を抱き、もっと学びたいという意志を築くことができました。授業で学んだこと以上のことを知りたく、自分でマーケティングの本を何冊も読むなど、留学前にはとりあえず留学するからという理由でやっていたことももっと学びたいからという理由で取り組むようになりました。また、今まで意識をしていなかったインターンシップへの取り組みもアメリカ文化から受けた影響です。自分の経験に繋げるためのインターンシップに取り組む現地の生徒に刺激され、私も現地でインターンを始め、すでに留学中に帰国後の日本でのインターンシップも決めていました。今まで全くわからなかった卒業後の計画も、今は自分の中でたくさんのオプションができ、その中からどれにしようか選べる段階になりました。留学で得たマーケティングの知識と、英語、日本語両方でのコミュニケーション力を活かし、まずは学生である間に色々な企業でのインターンシップの経験を積み、卒業後の進路に繋げていきたいと思います。